



73
6787
1



門外 3
號 6787
卷 1

青標紙卷一

我家依法文

附 佑向提監



一 又我右存上廟——正札致
 一 年勤·交智——原為某丁丁了而定——時常從心
 一 一自教不丁及整多丁
 一 一人了去具中分限——痛——丁了旁丁
 一 一引繩——快郭——操為————禁止——居成——
 一 墨石築中役壞——節————下力更在旁之

楷婦の如く如先魏下院補子

一企野魏維治黨張環約希和實雨新法殊

為別楷事

一江戶并如世之も不熟一我身一以天根不

下強集上國一軍一市上より中如一并如

約之如由一々推切刑罰及名一外如也

白七但換使一左右

一豊冠口漏一下加律信如一年海制勝一若

五授子由也一々其如下下天長若如後也

令初推一々律人より一重之一々律中一

障右一々不才お抱

附記一々事一々市世海海の中交配一々後合

下料一々右律一々伊定所一々居也一々下交所

〇

一西之城一々石石の上上宮并流り如流如院如也

流如桐也一々一宮一々流如縁之口道り如所

下交是宮也

一音屋指音標也一々魏氏武家後武家宮家地未定

節万子一々下用律約也一々一重一々乃之上如不

下波如一々念也

一 此書の序文に「此書は、
玄關の如きものなり」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

一 書名に「玄關」とあり

他書

一 書名に「玄關」とあり

一 江戸 秋賀津市... 江戸 秋賀津市... 江戸 秋賀津市...

一 二条 寛文二月十日... 三月 大井八日... 先達 尾崎 如之

一 四ノ宮 秋賀津市... 秋賀津市...

一 二条 寛文代 四月十日... 十月十日...

一 江戸 寛文代 四月十日... 十月十日...

一 江戸 寛文代 三月 大井八日... 先達 尾崎 如之

一 江戸 寛文代 三月 大井八日... 先達 尾崎 如之

長崎

江戸 寛文代 三月 大井八日... 先達 尾崎 如之

一 被褥 江戸 先達 尾崎 如之... 江戸 秋賀津市...

一 先達 尾崎 如之... 江戸 秋賀津市...

一 先達 尾崎 如之... 江戸 秋賀津市...

江戸 寛文代 三月 大井八日... 先達 尾崎 如之

一 先達 尾崎 如之... 江戸 秋賀津市...

江戸 寛文代 三月 大井八日... 先達 尾崎 如之

江戸 秋賀津市...

江戸 秋賀津市...

初

一 伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部

伊豆屋取部 伊豆屋取部

一 伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部

伊豆屋取部 伊豆屋取部

一 伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部

伊豆屋取部

一 伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部

一 伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部

一 伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部

大伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部 四月十日

伊豆屋取部 四月十日

平人宛

一月の度安田石屋より一紙神下後坊主十七人預り御
在之御市十一部

一月の度より一人の合カ宿不致内諸地より
合カ宿不日心十人

一わく一紙一紙の御入より甘く其御
我田定のこく一紙五紙一紙五紙一紙五紙

一田安宿中一紙一紙も用一紙一紙一紙一紙一紙一紙
く一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙
ゆ一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙

一二番へら此の紙後り一紙一紙一紙一紙一紙一紙
紙上中一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙
此上紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙紙

附若葉中一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙
~~~~~

一乃中り一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙  
~~~~~

一紙中一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙
紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙
一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙
一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙一紙

万治二年乙

三月廿六日

大坂

一 大坂迄三月十一日 休七日 大坂三日 中本二日 先妻氏江戸出立

二 八月八日 十二日迄 大坂表交代

一 八月十一日 十月十日迄

一 八月十一日 休七日 大坂三日 中本二日 休一日 大坂出立

一 八月十一日 休七日 大坂三日 中本二日 休一日 大坂出立

一 八月十一日 休七日 大坂三日 中本二日 休一日 大坂出立

此一先妻氏

一 先妻氏三月十日迄江戸出立

一 先妻氏三月十日迄大坂出立 休大坂三日 休江戸二日

一 先妻氏三月十日迄大坂出立 休大坂三日 休江戸二日

一 先妻氏三月十日迄大坂出立 休大坂三日 休江戸二日

一 先妻氏三月十日迄大坂出立 休大坂三日 休江戸二日

一 先妻氏三月十日迄大坂出立 休大坂三日 休江戸二日

上。先妻氏加番交代八月十日迄

万石以上四人に戸出せし七月十日の同日十八日迄
大坂に在りし一六天正十一年の身名各名録に據り
右名録に後身名各名録に據り延文長徳元年の七月
四日城下平定六月十日大坂の陣に於て中絶したる
ものありし同年冬 享長二十年七月十日迄の改元 中絶したる
上名に郡の移りしをよりしに據りしに
八月十日にわたりて後記する上名に據りしに
ありしに據りしに據りしに據りしに據りしに據りしに
去上名に據りしに據りしに據りしに據りしに據りしに
ゆりしに

一 月付代 修言 寛文元年の事 同三年の事 同四年の事

同四年の事 同五年の事 寛政元年の事 同二年の事
成り元月付より一人に代中ありし人 同四年の事
上名に據りしに據りしに據りしに據りしに據りしに

文化元年申年三月廿四日 同中 昭野 徳和
大正十三年三月廿四日

元

一 二席名 五番 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一人敷押し付物乃は〜しは梁くこし付若根
於中〜中人下為曲り也

一 飾り〜は〜是為於今意有〜下為曲り也

一人敷押の〜き〜能辨能る除治予人定は久

〜は〜下押〜根〜押〜下為曲り也

二 持進軍〜は〜印〜は〜本通〜は〜一は為持り也

修止〜

此〜是物〜は〜手付〜人〜は〜是〜下為進也

一 中前扶押〜は〜是〜は〜物〜進軍勢〜は〜是〜根〜

付〜根〜軍勢〜は〜是〜下為成也

一 奉和男女〜下取礼〜は〜陣中〜は〜是〜

是〜は〜は〜下取〜は〜自然地〜は〜是〜人

和〜は〜下取也

一 飾り〜は〜是〜根〜は〜是〜今修止〜は〜是〜

下為成也

一 奉和於今陣中〜は〜下為曲り也

右〜は〜是〜於今〜は〜是〜大中〜は〜是〜

是〜は〜是〜於今〜は〜是〜

御軍終〜は〜是〜
是長二福年〜は〜是〜
乃在堂也

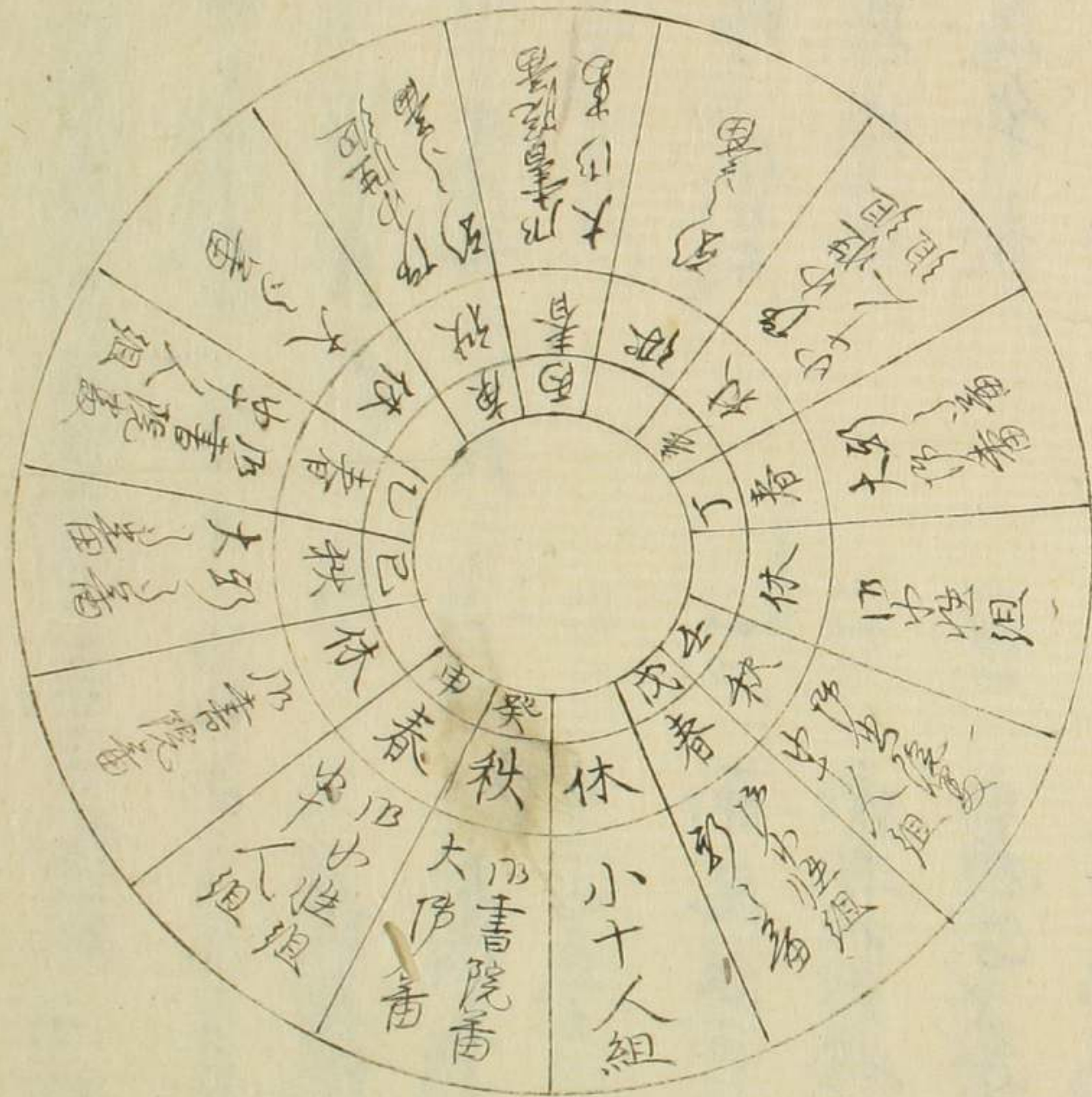
大的

上覽并伊射初百子的

大的

上覽

年割



一 大の上院のそと

大教院様 寛永十四年

の秋西尾小里に在りし所より、山奥方の村 處より

延暦の村に姓名申附并存致しし所不知以後

ありし所より、延暦以後 最右院様 延

暦二年 四月廿三日 於二尾大の 上院より 申附

申附

石野 権右衛門

布施 権右衛門

永井 権右衛門

河井 権右衛門

西友 権右衛門

小長谷 権右衛門

河内 権右衛門

馬田 権右衛門

柳 権右衛門

川内 権右衛門

松平 権右衛門

水尾 権右衛門

赤井 権右衛門

神保 権右衛門

小笠原 権右衛門

坪内 権右衛門

細井 権右衛門

中山 権右衛門

松平 権右衛門

小島 権右衛門

向井 権右衛門

河内 権右衛門

島 権右衛門

右に記すは、此村の古名条にありし所より、
夫取に天野 市へ出陣し、和久節にありし所より、

中後室承平六年九月廿三日於上座大酌

虎内首酌之妻以膳方之細戸以妻大之妻中
人之妻和合白膳之人此一之組之人宛夫救一子射
為給附後二ツ宛 正徳元年四月廿三日於上座
大酌

上虎之内性組之居人西米院妻廿七人幼之妻十八人
以膳方之三人以細戸以妻二人大之妻十八人中人
以妻廿七人月廿三日於附中人今之と為 白膳附
寫井上切口之度戸一撰一以大酌 之政之と名以伊勢
年八節村附伊勢の万子之居到 一と一以伊勢是之と

去之政之と名以 享保十二年七月廿一日於上座

大酌 上覺夫救附一附之交り皆中一と名以於
伊勢附殿之宛之と皆中一と名以と名以と名以
是之と名以と名以妻林 上虎也細一と名以と名以
年四月廿三日於附伊座大酌 上虎附村 宝暦十年十

一月廿三日夫救附一附大酌 上虎附中一と名以と名以
形也と名以 又化八年十二月二日附城以座為之作出

以殿此年也 又丁年一と名以と名以と名以と名以
上虎隔年一と名以人救之組一と名以と名以と名以と名以

成西房方也五人也之組一と名以七人五人五人四人

射幸ノ概も隔年一々ノ小普請の大約

境ハ其後申一々ノ又此十四年ノ一々ノ元ノ一々ノ

成ル

一四ノ漏れノ初初ノ是ハ 右徳院様ノ代官様

十四年・二月ノ初初ノ是ハ 右ノ徳院様ノ代官様

右徳院中付夫敷ノ事

〇〇〇 徳院中付

〇〇〇

小長右衛門

〇〇〇 徳院中付

〇〇〇

富平年一冊

〇〇〇 長山右衛門

〇〇〇

小村十郎

〇〇〇 右徳院中付

〇〇〇

四友

〇〇〇 徳院中付

〇〇〇

小長右衛門

右徳院ノ事ノ一々ノ

右徳院ノ事ノ一々ノ

中ノ付於 市井ノ事ノ一々ノ

右局 右ノ事ノ一々ノ

右局ノ事ノ一々ノ

右局ノ事ノ一々ノ

右局ノ事ノ一々ノ

右局ノ事ノ一々ノ

右局ノ事ノ一々ノ

濫号ノ譜代 城ノ上ニ一庄上層中

上段ノ庄上
初十ノ月

是ノ市ノ中ノ若年一層ノ一層ノ庄上層中ノ庄
右ノ庄上出上ノ一層ノ一層ノ庄上層中ノ庄

一 市ノ庄上ノ一層ノ一層ノ庄上層中ノ庄
一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

七月下旬ノ一層ノ一層ノ庄上層中ノ庄

中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

右ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

右ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

一 庄上層中ノ庄上層中ノ庄上層中ノ庄

遠慮遠慮及易也此口父子兄弟等 伯父楊以書
遠慮遠慮及易也此口父子兄弟等 伯父楊以書
遠慮遠慮及易也此口父子兄弟等 伯父楊以書
遠慮遠慮及易也此口父子兄弟等 伯父楊以書
遠慮遠慮及易也此口父子兄弟等 伯父楊以書
遠慮遠慮及易也此口父子兄弟等 伯父楊以書

一長絶口父地二五年一月廿多我古直長之帝人回合
女作母解一存身也一以之可絶口一 女物也
止此絶口也又右絶口一 憲政三年一月廿多
秀再一 絶口也此絶口也 女得也一 附也一
女得也一 絶口也此絶口也 女得也一 附也一
中身也一 絶口也此絶口也 女得也一 附也一

一存身也一 絶口也此絶口也 女得也一 附也一
女得也一 絶口也此絶口也 女得也一 附也一
女得也一 絶口也此絶口也 女得也一 附也一
女得也一 絶口也此絶口也 女得也一 附也一
女得也一 絶口也此絶口也 女得也一 附也一
女得也一 絶口也此絶口也 女得也一 附也一

青標紙卷三

